

氏 名：平林優子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第115号

学位授与年月日：2013年9月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：主査 教授 及川郁子
副査 教授 田代順子
教授 廣瀬清人
国際医療福祉大学 村田恵子

博士論文審査結果

2013年7月24日

看護学研究科博士後期課程	氏名 平林 優子
専攻分野	小児看護学
論文題名	気管切開を実施して家庭で生活する幼児の療養行動獲得過程と動機づけの検討 ～親への看護支援プログラム開発に向けて～
審査委員	職名・専攻他 氏名
	主査 教授 及川郁子
	副査 教授 田代順子
	副査 教授 広瀬清人
副査 国際医療福祉大学 村田恵子	

審査の合否および評価（㊤・否）

審査結果の要旨

幼児期は通常でも日常生活行動を獲得していく時期であるが、慢性疾患のある子どもたちは、疾病に伴う療養行動も少しずつ日常生活に取り入れていくことが期待されており、そのためには、親が子どもの発達状況や意欲などを察知しながら、療養行動を促していくことが重要となる。

本研究は、気管切開を実施した幼児の療養行動を促す親への支援プログラムの開発に向け、幼児の療養行動の獲得過程における親の関わりについて、子どもの動機づけと関連づけて質的に分析したものである。その結果、幼児の療養行動の獲得過程は、【幼児の関心と行動欲求】と【幼児の欲求と能力を読み取る親の関わり】の循環（子どもと親の相互作用）から生じていることが明らかとなり、この結果を基に、子どもの動機づけを基盤とした「親への看護支援プログラム」について提案を行った。

審査では、以下の点について加筆・修正の指摘があった。

1. 概念分析から出された動機づけの定義を、用語の定義に明記する
2. 文献検討で示された概念枠組みについて、概念枠組みの検証ではないため、序章から文献検討の章に移す
3. 結果として示された幼児の療養行動の発達過程について、おおよその暦年齢で示されているが、対象児の特性やレトロスペクティブなデータであることを考慮し、研究の限界として述べておく
4. 考察について：①研究目的に沿って、動機づけとの関連について考察を深める、②文献検討で示された概念枠組みの修正・検討になっているが、結果に基づき「親への看護支援プログラム」の新たな枠組みとして考察・提示する
5. テーマを研究目的・結果に基づいて修正する
6. 考察の修正に伴う結論・要旨の修正、および文中の表記の統一を行う

上記、修正は確認された。

幼児期の療養行動獲得に関する研究はこれまでほとんどなく、結果で示された子どもの動機づけのあり様は、療養行動獲得に向けた子どもの力として新たな知見であり、オリジナリティの高い研究であると評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。